

航空機リース、200機発注

三井住友系 業界の経営悪化で需要

【ファンボロー（英南
部）＝藤生貴子、ヒュー
ストン＝大平祐嗣】三井
住友フィナンシャルグル
ープ（SMFG）傘下で
航空機リースを手掛ける
SMBCアビエーション
キャピタル（SMBCA）

C、アイルランド）は20
日、米ボーイングと欧州
エアバスに合計で200
機の小型民間機を発注し
たと発表した。

英国で20日に開幕した
世界最大級の航空機関連
の展示会「ファンボロー

国際航空ショー」で発表
した。内訳はボーイング
とエアバスがそれぞれ1
00機ずつとなる。ボー
イングとエアバスの20
25年通期の受注機数は
それぞれ1075機と8
89機で合計2000機

弱だった。世界の2大航
空機メーカーの年間受注
の1割に相当する。

大型発注の背景には、
航空業界の経営環境の変
化がある。

航空業界全体の純利益
率は数%にとどまるとさ
れる。航空機の購入は1
機あたり数百億円に上る
ことがあり、整備費など
も重くのしかかる。新型
コロナウィルス禍の際に
は需要が急減し、経営が
一気に悪化した。

航空機を自社で保有せ
ず、リース契約を結べば、
航空会社は固定費を抑え
られ、需要に応じて必要
な航空機を短時間で手配
できる。中東情勢の緊迫
による航空燃料価格の高
騰も経営への逆風となっ
ており、今後のリース需
要を押し上げる可能性が
ある。